

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年1月22日

【評価実施概要】

事業所番号	1170600520
法人名	株式会社 ウイズネット
事業所名	グループホームみんなの家・春日部花積
所在地	〒344-0044 埼玉県春日部市花積108-5 (電 話) 048-753-3091
評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成21年1月15日

【情報提供票より】(平成20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 9人, 非常勤 10人, 常勤換算 17人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1～2階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円		その他の経費(月額)	15,000円+実費
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (120,000円)		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	370 円	昼食	490 円
	夕食	490 円	おやつ	100 円
	または1日あたり 1,450円			

(4) 利用者の概要(12月20日現在)

利用者人数		17 名	男性	3 名	女性	14 名
要介護1		5 名		要介護2	6 名	
要介護3		4 名		要介護4	1 名	
要介護5		1 名		要支援2	0 名	
年齢	平均	84 歳	最低	68 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩槻中央病院、春日部厚生病院、梅原病院、ういずクリニック、高木歯科クリニック
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、丘の中腹にある郊外の住宅地に位置し、自然豊かな環境にある。「花のような明るい笑顔の中に積み重ねた信頼関係があるーあたたかい暮らし、あたたかいみんなの家ー」という地名を活かした理念は職員で考えられたものである。職員は、利用者の思いや意向をどのように理解してケアにつなげるか考えながら一丸となって取り組んでいるところである。また、介護計画と毎日の生活記録が連動する独自の記録用紙を考えて使用するなど、小さなこともおろそかにせず、皆で考えて進めていくことを大切にしている。地域との交流やボランティアの受け入れなども行われ、利用者サービス、施設管理・運営、教育研修等整備された中で行き届いたサービスを提供しているホームである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価の結果については職員に周知しており、職員会議で改善に向けて検討している。市町村との連携については、市の協力を得られるように努力している。災害対策については、年2回の避難訓練を消防署の協力を得て実施できているが、地域との協力体制はこれからの課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価では、フロア長が行ったものを基に職員全員で話し合い、前向きに取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は2か月ごとに開かれており、市職員、地域包括支援センター、家族、職員をメンバーとしている。会議では、利用者の状況報告、サービスや評価に関することを報告するとともに、要望や助言等を受けている。家族からの施設サービスに関する要望は少ないが、できるだけ意見を活かしていきたいという姿勢がある。市からの意見を家族が希望しており、特に制度に関する関心が高いと感じている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 毎月、家族には生活状況、健康状態などを広報誌と共に送付して報告している。また、運営推進会議では家族の質問、意見、要望を受け、お互いに意見を言う機会としており、運営の改善に活かすようにしている。
重点項目④	自治会に加入して情報交換をしている。近隣の教会の行事に参加したり、ホームの行事に招待しながら交流している。また、学校との交流もあり、児童が遊びに来たりしているほか、レクリエーションを中心とした各種ボランティアによる来訪がある。ホームの外の掲示板には、案内や情報の掲示をして開かれた施設になるように努力している。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「花のような明るい笑顔の中に積み重ねた信頼関係がある・あたたかい暮らし、あたたかいみんなの家」という理念は、地域の名称を含めて職員により考えられたものである。地域の中で暮らしていくことの大切さが理解されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念をよく共有しており、日々、職員は協力し合い気づきを大切にしている。また、職員会議やフロア会議で話し合い、意見の統一を図って共に理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。行事のチラシやお知らせをしたり、自治会の情報を得たりしている。近隣の教会の行事に参加したり、ホームの行事に招待しているほか、学校との交流もあり、児童が遊びに来たりしている。ホームの外の掲示板には、案内や情報の掲示をして開かれた施設になるように努力している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の結果を職員に周知するとともに、職員会議で改善に向けて検討している。また、今回の自己評価では、フロア長が行ったものを基に職員全員で話し合っており、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2か月に1回開催されている。メンバーは、地域包括支援センター、家族、職員を中心とし、時には市の参加がある。会議では、利用者の状況やサービス評価について報告し、参加者から要望や助言等を受けている。施設サービスに関する家族からの要望は少ないが、できるだけ意見を活かしていきたいという姿勢がある。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族は行政からの意見を求めていることから、運営推進会議に市の担当者が出席した際は交流を図るようにしている。また、地域包括支援センターとの連携をとってサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月領収書を添えて出納記録を送付するとともに、「はなづみ新聞」と個人に関する手紙を加えて生活状況や健康状態等を報告している。また、楽しく生活がわかり易い広報誌を発行している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族からの意見、不満、苦情等を聞き、運営に反映させるようにしている。また、苦情相談窓口や意見箱等が設置されているが、苦情は少ない状況にある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員から安心したサービスを受けられるように心がけている。異動については最小限に抑えるように努め、退職時には利用者に挨拶をするなどの対応をとり、不安を与えないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人には階層別に研修計画がある。また、委員会活動への参加は専門性を高める機会にもなっているほか、人材育成とフィードバックシステムができています。なお、ホーム内での研修報告は、口頭または掲示で行われている。研修に関する情報の共有と個人の参加については、業務上の都合もあり十分とは言えない。	○	職員の学習意欲は高く、学習テーマを持っている人もいるので、個々の段階に応じた年間計画の下に実践できることが期待される。また、ホームで行われる研修報告の記録及び伝達を充実させ、研修成果をより活かしていくことを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のケアマネジャーの会に参加することで情報交換をしたり交流の機会を持ち、サービスの質の向上につながるよう努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が馴染みながら納得して利用できるように、見学や面接等してから入居に至るようにしている。また、サービスを開始する前に自宅を訪問することで生活歴や本人、家族の希望を汲み取り、その人らしい生活を送れるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	不安や喜びなど本人の思いを共感しながら一緒に過ごす暮らしの中で、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、利用者の思いや意向の把握に努めている。職員は小さなことでも見失わないように敏感に反応できるよう心がけ、本人が意欲を持って喜びを感じられる生活を目指している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるように本人や家族の要望を聴き、職員全体で意見交換して介護計画の立案をしている。それぞれの居室担当者は複数配置され、責任を持って目が届くようにするとともに介護計画に意見を反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画にそった毎日の生活記録のあり方を検討してきた。介護計画の短期目標はあらかじめ番号化してはじめてに綴じ込んでおき、生活記録は常に計画と照合させており、モニタリングや計画の見直しに連動して役立てている。誰が見ても理解できるプランを目指して、職員と話し合った末作成された独自の書式を使っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じられるように心がけており、外出や通院の支援をしている。また、同一敷地内のデイスサービスの車を利用することができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のホームドクターによる訪問診療が月2回ある。また、利用者のかかりつけ医には必要時に受診し、それぞれ連携しながら適切な医療が受けられるように支援している。また、年1回検診車による健康診断を実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に係る指針」に則り重度化した場合の支援を検討している。これまでに事例はないが、利用者の高齢化が進んでおり、重度化した利用者の受け入れを可能にする方向で事業の発展を模索しているところである。	○	今後の取り組みとして重度化や終末期ケアの実践について話し合いを重ね、具体的な方針を共有していくことが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への言葉かけでは、本人を尊重しプライバシーを損ねることがないように特に留意しながらケアにあたっている。記録は全て事務室に整理・保管され、記録を記載する際もプライバシーに注意して行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる日課はあるが、個人の体調や気持ちに配慮しながら進めており、できるだけ本人のペースに合わせるように支援している。本年度の目標に「本人の心の声をきく」と掲げており、その人らしい暮らしとは何かを考えるきっかけになっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立、調理、盛り付けは委託会社により提供されている。片付けでは、利用者も体調をみながらできる範囲で行っている。また、食事をとる際は、職員も一緒に楽しくケアをしながら食べており、時には手作りのおやつを取り入れることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は昼間の時間帯で行い、利用者の希望にできるだけ合わせた時間で1日おきには入浴できるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	希望する利用者には居室のモップ掃除、食器拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみなどの役割を担ってもらったり、リーダーシップを発揮できる場面を作って、生活に張り合いが出るように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	冬季は寒さ等の影響で外出の機会が少ないこともあるが、周辺には静かな散歩道があり、また居室は前面南向きでベランダが通じているので外気に触れることができる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックになっているが、1階、2階間は自由に行き来することができる。また、居室のベランダ側は全面を開放でき、安全を確保しながら行き来することが可能である。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害マニュアル、職員連絡網が作成されており、消防署の協力を得て年2回避難・消火訓練を実施している。地域の人々の協力体制はまだできていない。	○	地域の人々の協力を得られるように働きかけていくことを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録している。特に水分管理の必要な方には、15時に小計を計算して、1日の過不足が無いように厳密な観察をして水分確保の支援をしている。食事摂取が困難な方にはペースト食を時間をかけて勧めるなど、一口でも多く喜んで食べてもらうように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には習字の作品が展示しており、草花が随所に飾られ、明るく和む雰囲気がある。居間や廊下などには皆で作った作品が工夫して掲示されており、居心地のよい明るく清潔な空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きの日照、通風の良い居室に、備え付けのベット、ロッカー、チェスト、空調、洗面台、2重カーテンなどが整備されている。また、使い慣れた物品が持ち込まれたり、それぞれの好みに合わせた手作りの作品や装飾があり、過ごしやすい居室づくりになっている。		